

# Web日記拡大版

平成28年2月9日(火)

## へその緒の役割

おなかの中の赤ちゃんの様子を知ること、へその緒の役割を理解し、親子の絆やたくさんの人たちの愛情によって育てられていることを感じられるようにと、養護教諭が妊婦でもある教員の協力を得ながら、3年生を対象に性教育の授業を行いました。

授業は、「おなかの赤ちゃんはどうやって大きくなったの」という問いかけから始まり、「おへそってなあに？」の紙芝居を見た後、胎児人形を使ってへその緒の役割を学び、さらに妊婦からおなかの赤ちゃんを守る母親の思いなどを聞き、学んだことや感じたことをまとめるという形で進めました。



おなかの中の赤ちゃんはどうなっているのだろう。養護教諭は妊娠7か月の胎児の人形を子宮に見立てた袋から取り出しました。赤ちゃんのおへそと栄養タンク(胎盤)がへその緒でつながっています。養護教諭は、へその緒、胎盤、羊水の3つの働きについて説明しました。「へその緒は『命のパイプ』。おへそは、お母さんとおなかの中でつながっていたんだよ」子どもたちは真剣に話を聞いていました。



へその緒が役目を終えて取れていくよと人形を使って順番に説明

「赤ちゃんが産まれた後、へその緒は役目を終えて、黒ずんでぼろりと取れていくんだよ」という話に、子どもたちは驚きの声を上げました。その後、実際にへその緒をみんなで見ました。黒ずんだ色にも驚きの声。

赤ちゃんが産まれた直後の写真(下)で、ピンク色のへその緒がおへそにしっかりと付いていることを確認しました。



(写真左)「おなかの赤ちゃんのために好き嫌いせず食べて、赤ちゃんに栄養を送っています。また、おなかの中で赤ちゃんは外の音を聞いているというので、いつも赤ちゃんに話しかけるように話をしています。家でも学校でも、周囲の人たちに気づってもらい赤ちゃんがとても大事にされていると感じます。きっと、みんなも大事にされて産まれてきたのだろうと思います。」



おなかに赤ちゃんがいるときは、栄養をたくさん与えるために、お母さんもたばこやビールをのまないで、栄養のある食生活を送らなければいけないと感じました。お母さんのおなかから出やすいように、赤ちゃんもがんばっていることが分かりました。



へその緒は「命のパイプ」ということが分かったし、お母さんのおなかの中に赤ちゃんがいるときだけ、栄養タンクがあることを初めて知りました。こんなにおへそは大切なんだなと思いました。お母さんに、今日の授業を教えてください、私がおなかにいた頃の話を聞きたいです。